



2019年4月入職

やまひらゆうや  
山平雄也

## 内気な性格を、プラスに変えるきっかけに

### 患者さまの痛みを理解できるのは、自分の強み

臨床工学技士という仕事を知ったとき「なんてかっこいいのだろう」と思いました。病院実習で透析クリニックに行った際、機械操作だけでなく、患者さまとコミュニケーションを取りながら日々の生活を支えている臨床工学技士の姿に、私は憧れを抱いたのです。ただ、私は幼い頃から内気な性格で、人とコミュニケーションを取ることに苦手意識がありました。クリニックの技士の方たちと同じように、患者さまを笑顔にできるのだろうかという不安を払拭してくれたのが、実習を担当してくださった技士長でした。「自分の弱さを理解していることは武器になる」という言葉は今も忘れられません。患者さまの中にもコミュニケーションが苦手な方、言葉として表に出さなくても、心の中では痛みを感じている方たちもいらっしゃるかと思います。技士長のおかげで、「患者さまの気持ちや痛みを理解できるのは自分の強みだ」と捉えることができました。

透析業務に就いてよかったと思えた瞬間として、ある転入された患者さまを担当したときのことが挙げられます。まだ慣れない環境で緊張もあったのか、スタッフの問いかけに反応してくださらないことが多く、対応に悩んでいました。比較的若い男性の患者さまだったため、そのとき施設で唯一の男性スタッフである自分が一番話しやすいのではないかと思い、積極的に穿刺に入るなど、コミュニケーションを取る機会を意識的に増やしました。最初はほとんど反応していただけなかったのですが、少しずつ会話が増えていき、今では転入してきた頃が想像できないほど、笑顔でコミュニケーションをとっていただけるようになりました。

### ずっと学び続けることで成長していける



善仁会に入職して感じたのが、すごい先輩たちがたくさんいるということです。特に私が所属してきたクリニックには、同じエリアに多くの思いやりエキスパートが在籍しており、さまざまな場面での活躍ぶりを目にする中で、「こんな技士に自分もなりたい」と思っていました。思いやりエキスパートに選ばれたときには、自分の成長を認めてもらったのと同時に、先輩

たちの存在があまりにも大きく、同じ立場になる自信がなかったのも事実です。その不安を上長に相談したところ、自分たちも最初からできていたわけではなく、思いやりエキスパートになってからも学び続けることで成長しているのだと教えてくださいました。こうして振り返ってみると、多くの方々の言葉が私の人生に影響を与えてくださっていることを改めて感じます。これからも意欲的に業務に取り組み、より一層の自己研鑽に励んでまいります。



関わる全ての方々に  
安心感を与えられる  
エキスパートを目指します。

山平 雄也